

# 阪神高速1号環状線リニューアル工事2020南行 工事広報が行動変容に与えた影響について

阪神高速道路(株) 管理本部 大阪保全部 保全管理課 ○中井万理子 児玉崇

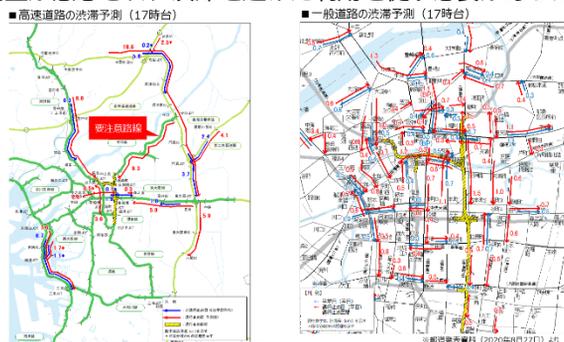
## I. 環状線リニューアル工事2020南行の概要

『1号環状線リニューアル工事2020南行』を2020年11月10日から20日まで（一部20日から27日の+7日間）実施。



## II. 交通影響予測

1号環状線は放射線状に伸びた各路線を連絡する役割を担う路線であるため、大阪都心部では一時退出・再流入する交通の大量発生が懸念され、渋滞を避けた利用を促す必要があった。



## III. 特設サイトへ導き行動変容を図る広報展開

大阪都心部の交通影響の悪化を極力抑えるため、各々が必要とする情報を効率的に取得できる特設サイトを用意し、渋滞を避けた利用を促す広報を実施した。また、特設サイトへの接触機会を増やすため、様々な広報媒体を組み合わせて使用した。

本線上の横断幕や交通広告、テレビCMやラジオ等様々な広報媒体を組み合わせて接触機会を増やす

特設サイト

通行止期間・区間

う回ルート検索システム

時間帯別渋滞予測MAP

乗継対象出口の渋滞影響の予測程度を表示  
→ 回数乗継を推奨  
→ 比較により、経路変更を促す

時間帯別の予測渋滞量を表示  
→ 比較により、渋滞ピークを避けた時間帯変更を促す

渋滞予測を考慮したルートと通常ルートを表示  
→ 比較により、経路変更を促す

出発地と目的地日時を入力

電車利用の予測所要時間も併せて表示  
→ 比較により、交通手段変更を促す

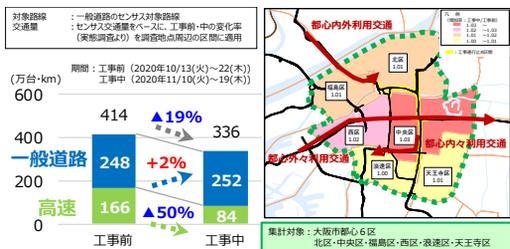
前後時間帯の予測所要時間を表示  
→ 比較により、時間帯変更を促す

特設サイトにてお客さま自身が検索し、計画的な利用を検討してもらうと同時に、行動変容が必要であることを理解してもらう  
→ 行動変容を実施

特設サイトの表示回数は約300万回、訪問者（重複無し）は約70万人（初日は7万人超）という結果に。また、各検索サービスも初日をピークに相当数の利用あり。

## IV. 工事期間中の交通影響

走行台キロは高速道路と一般道路で合計19%の減少  
⇒ネットワークを活かした分散施策や工事広報等により、都心部での利用抑制（広域なう回や利用取り止め）を達成



## V. アンケート調査結果

お客さまが実際に行動された内容を、アンケート調査を実施し分析した結果、経路変更や時間帯変更、予定の調整や利用の取りやめなど、行動変容が実行されていたことがわかった。

行動変更	活動エリア		運動エリア		その他		計	活動エリアに関わらず、予定変更が積極的に実施されていた	高頻度利用者は、経路変更や時刻変更を積極的に実施していた
	実施	割合	実施	割合	実施	割合			
経路変更	149	82%	296	91%	372	91%	(n=556)		
時間帯変更	43	24%	90	25%	110	24%	(n=163)		
交通手段変更	76	41%	58	16%	67	16%	(n=199)		
その他	28	15%	28	8%	28	7%	(n=116)		

## VI. まとめ

- ✓大阪都心部の交通影響を抑えるため、様々な広報媒体を用いて工事広報への接触機会を増やし、特設サイトへと誘導した。
- ✓特設サイトでは複数の検索システムを搭載し、利用計画の検討に加え、行動変容を促す情報を提供した。
- ✓特設サイトは多くの方に閲覧いただき、交通影響データやアンケート結果からも行動変容が実行されていたことがわかった。
- ▷2021年度に実施する1号環状線北行ではこれらの結果を踏まえて、活動エリアや利用頻度による行動変容方法の傾向も加味し、各種広報媒体のターゲット別使い分けや特設サイトの検索システムの更なる展開を検討する。